資料１－２

これからの滋賀の高校に関するアンケート
結果報告

調査の概要

生徒・保護者・県民あわせて 38,298件 の回答を得た

調査区分	対象	回答方法	回答期間	回答数
中学生	県内の中学生（義務教育学校7～9年生含む）	Web	7月14日～9月30日	16,852件
高校生	県内の高校生	Web・紙	7月13日～9月30日	11,493件
高校生の保護者	県内の高校生の保護者	Web・紙	7月13日～9月30日	4,489件
中学生の保護者	県内の中学生の保護者	Web	7月13日～9月30日	5,049件
県民	県民（年代を問わない）	Web	7月13日～9月30日	415件
合計				**38,298件**

主な設問

生徒・保護者向け：学年、学校の所在地／高校名、進路希望、高校選びで重視する点、就学支援金の影響（保護者）、
自由記述（これからの滋賀の高校に必要なこと／「こんな高校があるといいな」）
県民向け：年代、居住地域、自由記述（あなたの考え）

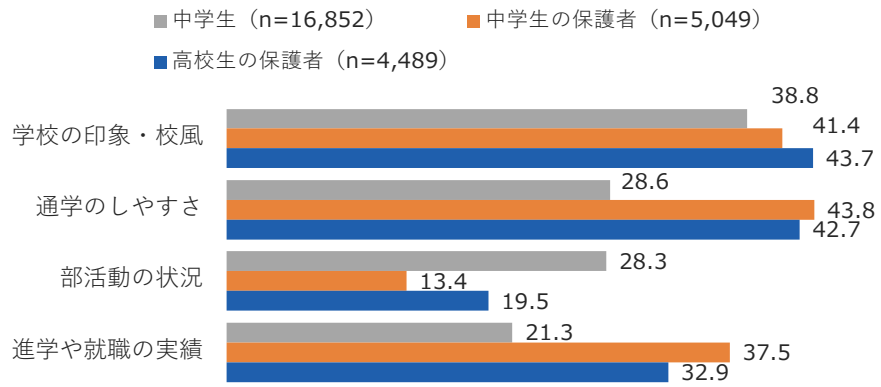
調査結果概要

38,298 件
生徒・保護者・県民からの回答件数

72.5 %
中学3年生のうち、県立全日制を希望

82.3 %
中学生の保護者のうち、就学支援金が進路選択に「影響がある」（高1は51.0%）

高校選びで重視する点（上位4項目、%）



重視する点は2つまで選択

自由記述で多いテーマ（立場別、上位2つ）

中学生
- 楽しさ・雰囲気 21.0%
- 部活動 14.3%

高校生
- 校則・自由 18.4%
- 施設・設備 16.9%

保護者（中学生・高校生）
- 学力・進学支援 30.6%
- 学科・コース・特色 19.7%

県民
- 学力・進学支援 40.1%
- キャリア・地域・体験 31.4%

1,201件 エアコン・空調・暑さへの言及（うち高校生 735件）

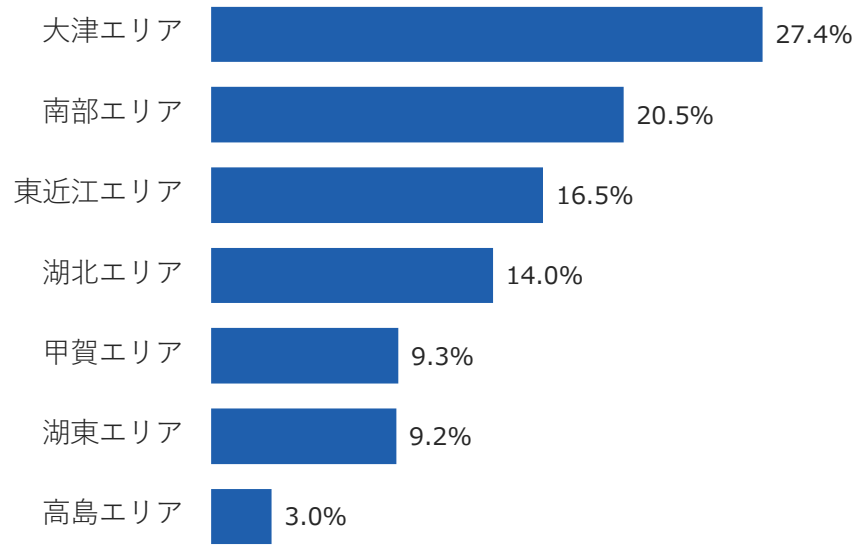
42.8% 高校生が挙げた今の高校生活の楽しさは「友達」

134件 「通信制」への言及 不登校113件・外国ルーツ51件

回答者の内訳

中学生は県内7エリアすべてから回答。県民は 40代と高校生 が中心

中学生：学校の所在エリア（n=16,852）

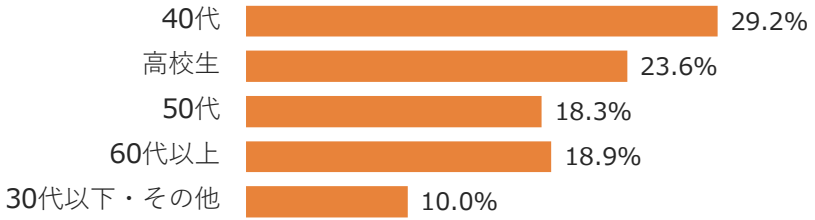


高校生（n=11,493）

1年生	2年生	3年生
39.4%	30.9%	29.3%

定時制 4.9%・通信制 0.6%（高校名の記載から判定）、4年生 0.5%

県民（n=415）

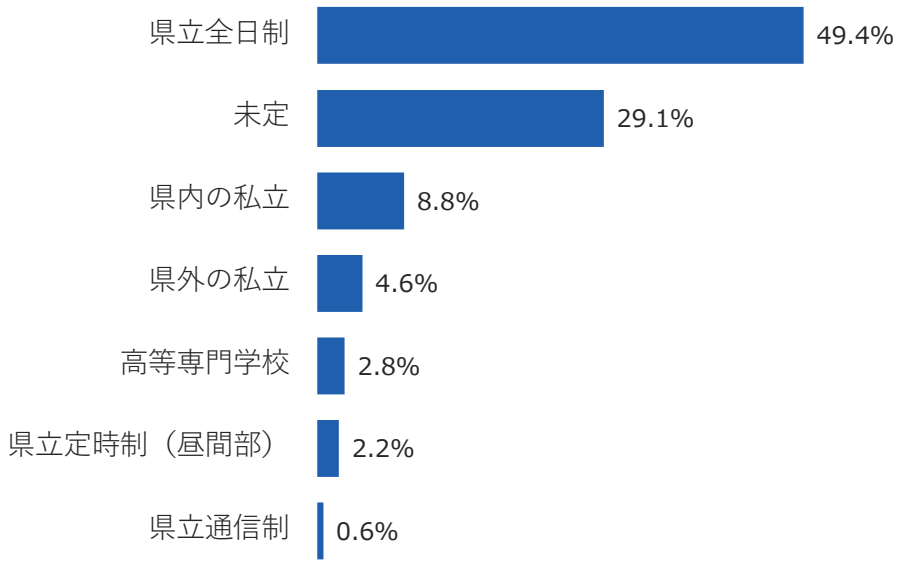


南部エリア＝草津市・守山市・栗東市・野洲市、甲賀エリア＝甲賀市・湖南市、東近江エリア＝近江八幡市・東近江市・日野町・竜王町、
湖東エリア＝彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町、湖北エリア＝長浜市・米原市

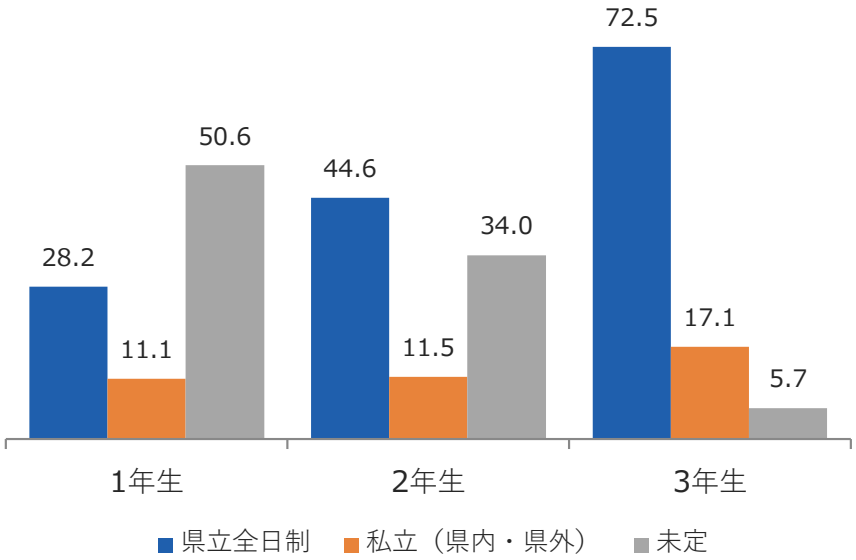
中学生の進路希望

中学3年生の 72.5% が県立全日制を希望。私立希望は学年が上がるほど増え、3年生で 17.1%

中学卒業後の進路希望（全学年 n=16,852）



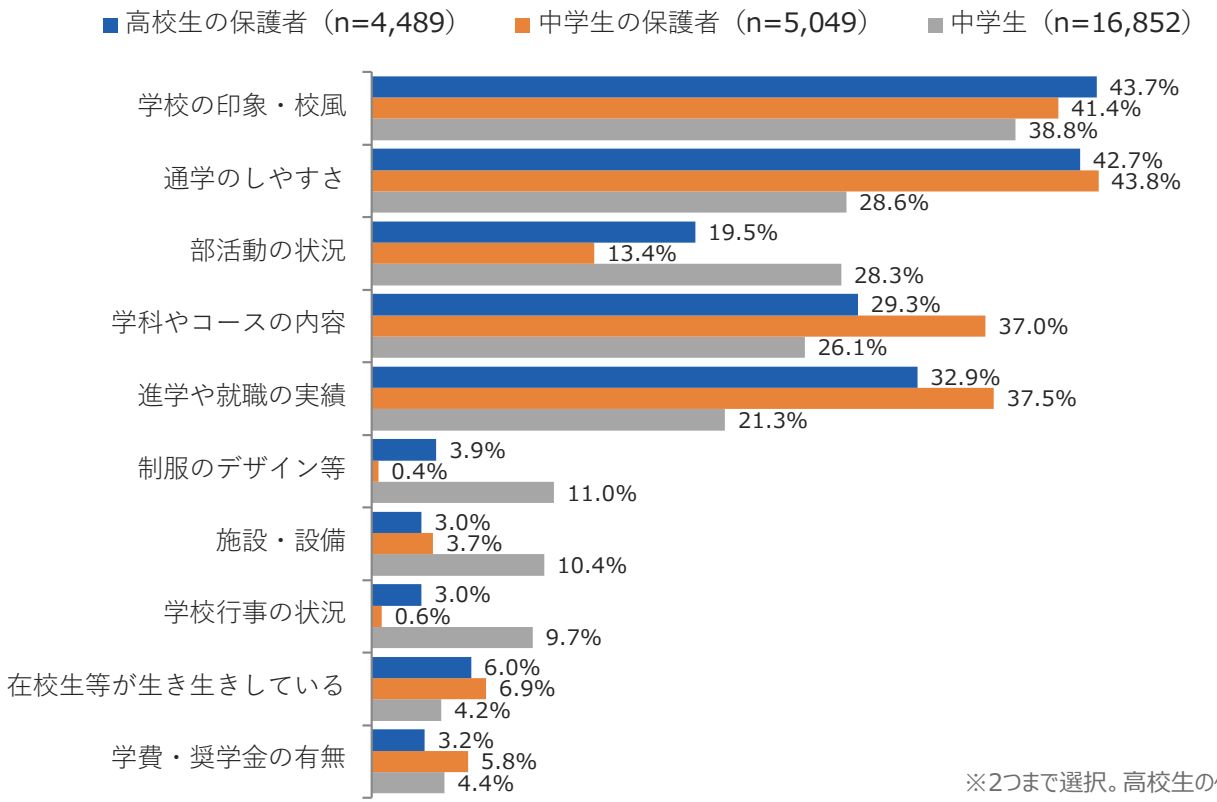
学年別にみた主な進路希望



※右図の単位は%。学年ごとの回答者数を100%とした割合。中学生の保護者（n=5,049）が考える子どもの進路は、県立全日制73.9%、私立（県内・県外）11.0%、未定8.9%。

高校選びで重視する点

中学生は「校風」「部活動」、保護者は「通学」「校風」「実績」を重視



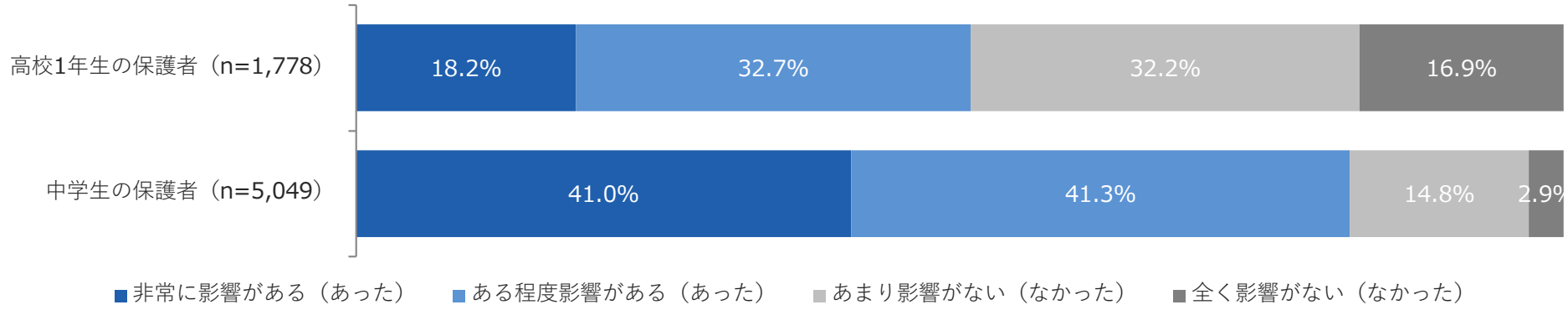
ポイント

- 中学生は「部活動」（28.3%）が保護者（13.4%・19.5%）を上回り、「制服」も11.0%
- 中学生の保護者は「通学のしやすさ」（43.8%）が最多。「学科・コース」（37.0%）は高校生の保護者（29.3%）より高い
- 中学生の11.9%は「まだ決められない」
- 高校生の保護者は「校風」（43.7%）と「通学」（42.7%）「実績」（32.9%）が上位

※2つまで選択。高校生の保護者は入学時に「重視した点」として回答。

就学支援金制度の拡充による影響

中学生の保護者の 82.3% が進路選択に「影響がある」と回答（高校1年生の保護者は51.0%）



51.0%
高校1年生の保護者のうち「影響があった」
（非常に＋ある程度）

82.3%
中学生の保護者のうち「影響がある」
（非常に＋ある程度）

724件
保護者・県民の自由記述のうち
「私立」に触れた意見

※就学支援金の設問は、高校生の保護者は1年生の保護者のみ、中学生の保護者は全員が回答。

自由記述の全体像

自由記述で語られるテーマは、立場によって大きく異なる

分類	カテゴリ	中学生 (n=14,366)	高校生 (n=9,830)	中学生の保護者 (n=4,693)	高校生の保護者 (n=4,158)	県民 (n=401)
環境	施設・設備	12.8	**16.9**	14.7	**17.5**	14.0
	食・購買	2.8	6.3	4.3	4.7	3.5
	通学・立地	10.4	3.8	8.5	6.8	10.2
	制服・服装	5.2	4.1	1.7	2.1	2.0
	時間・休み・ゆとり	0.9	2.1	0.8	1.2	3.0
学校生活	校則・自由	9.8	**18.4**	4.8	7.0	10.0
	人間関係・安心	9.8	7.1	9.7	9.1	9.5
	楽しさ・雰囲気	**21.0**	9.1	8.3	8.6	7.0
	部活動	14.3	4.0	9.0	11.7	13.5
	学校行事	10.6	9.4	4.4	7.6	4.7
学び	学力・進学支援	13.0	9.1	**32.7**	**28.3**	**40.1**
	教員・授業の質	4.0	4.8	13.3	**17.7**	**16.5**
	学科・コース・特色	7.9	4.3	**22.3**	**16.8**	**28.9**
	キャリア・地域・体験	3.2	2.1	**19.4**	**17.3**	**31.4**
	国際・交流	1.4	2.7	2.9	4.1	6.0
	生徒の主体性・声	3.0	5.6	10.7	10.4	9.7
	多様な学び方・支援	0.7	1.7	4.8	4.2	11.5
制度・発信	費用・公私・入試制度	2.8	1.7	**19.5**	14.0	**22.4**
	情報発信・保護者	0.2	0.3	9.3	10.0	12.0
その他	現状満足	0.1	0.4	0.3	1.3	0.0
	その他	12.6	**15.6**	8.5	9.2	9.5

立場ごとの特徴

中学生
「楽しさ・雰囲気」21.0%
「部活動」14.3%

高校生
「校則・自由」18.4%
「施設・設備」16.9%

保護者（中学生／高校生）
「学力・進学支援」32.7%／28.3%
「学科・コース・特色」22.3%／16.8%

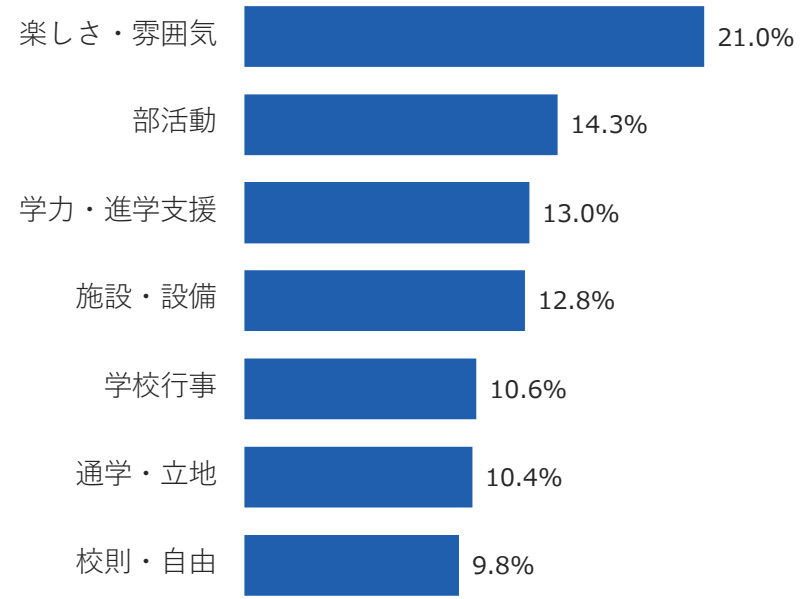
県民
「学力・進学支援」40.1%
「キャリア・地域・体験」31.4%

※数値は「特になし」等を除く記述に占める割合（%）。1件が複数カテゴリに該当する場合あり。色が濃いほど割合が高い。

中学生の声：「こんな高校があるといいな」

中学生は「楽しさ・雰囲気」「部活動」「学力」「きれいな施設」を思い描いている

言及の多いカテゴリ（n=14,366）



主な意見（原文から抜粋）

「皆で助け合えて声のかけやすい雰囲気の学校。」
（中学生）

「勉強や部活動のしやすい環境が整えられている」
（中学生）

「校舎がきれいで、学習するための設備が整っている学校」
（中学生）

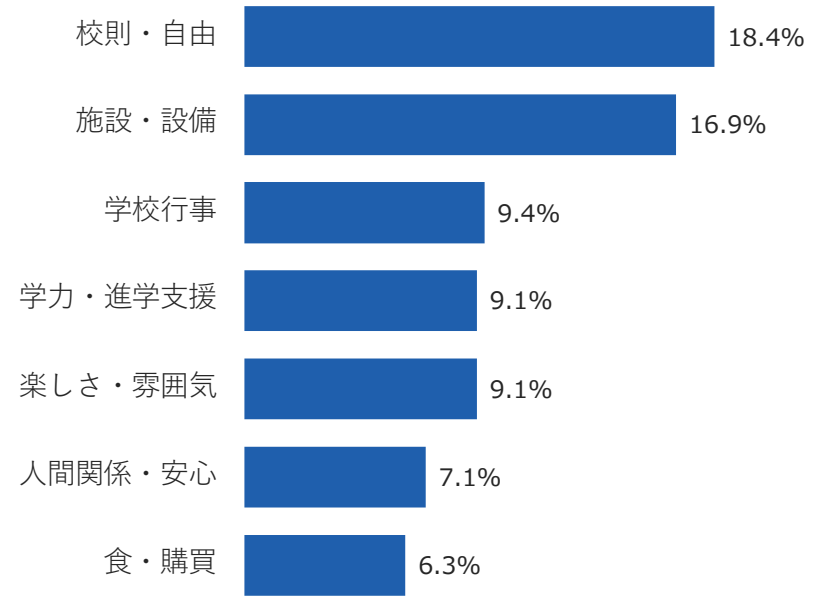
「学力があまりなくても、行きたいコースに行けるような高校」
（中学生）

自由記述をカテゴリ別に分けて集計。

高校生の声：「こんな高校があるといいな」

高校生は「校則・自由」と「施設・設備（特に暑さ対策）」への要望が突出している

言及の多いカテゴリ（n=9,830）



自由記述をカテゴリ別に分けて集計。

主な意見（原文から抜粋）

「快適な学校になってほしい。体育館がすごく暑いのでエアコンをつけてほしい。」
（高校生）

「体育祭などのイベントの日は、全力で楽しめるように一日だけ髪染めありやピアスありなどの校則を緩くする日があると楽しめる」
（高校生）

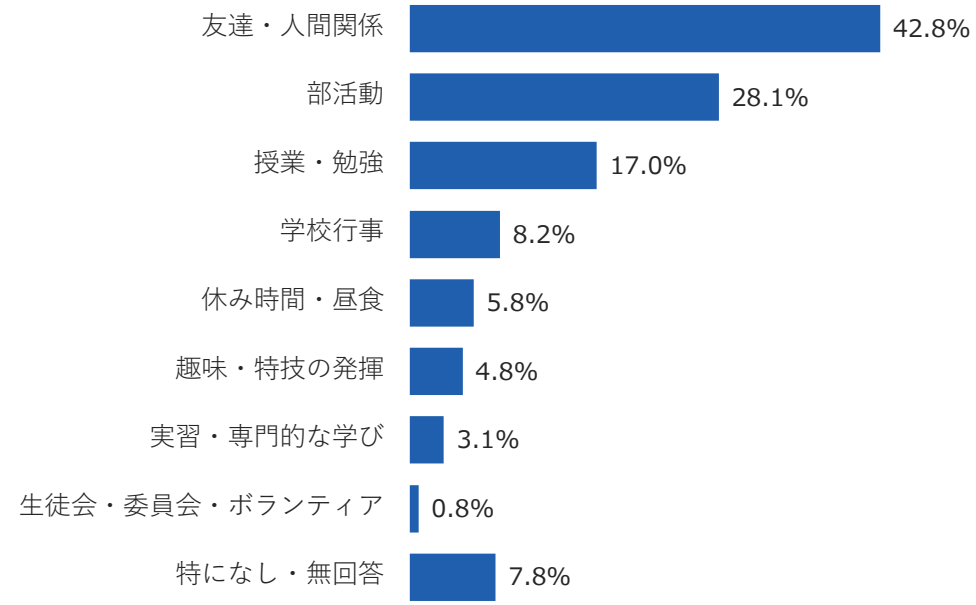
「生徒の意見を聞いてその意見をとりあげない理由を生徒を介さず先生の口から伝えてくれる学校」
（高校生）

「行事がいっぱいある高校。でも、進学とか勉強も一人ひとりに寄り添って手厚い高校。」
（高校生）

高校生の声：今の高校生活で楽しいこと

高校生活の楽しさの中心は「友達」（42.8%） と「部活動」（28.1%）

「楽しいこと」「得意なことを発揮できていること」（n=11,493）



自由記述をカテゴリ別に分けて集計。

主な意見（原文から抜粋）

「実習で自分の知らないことを知れるのが楽しい」
（高校生）

「授業で将来に向けての専門的なことが学べるところ」
（高校生）

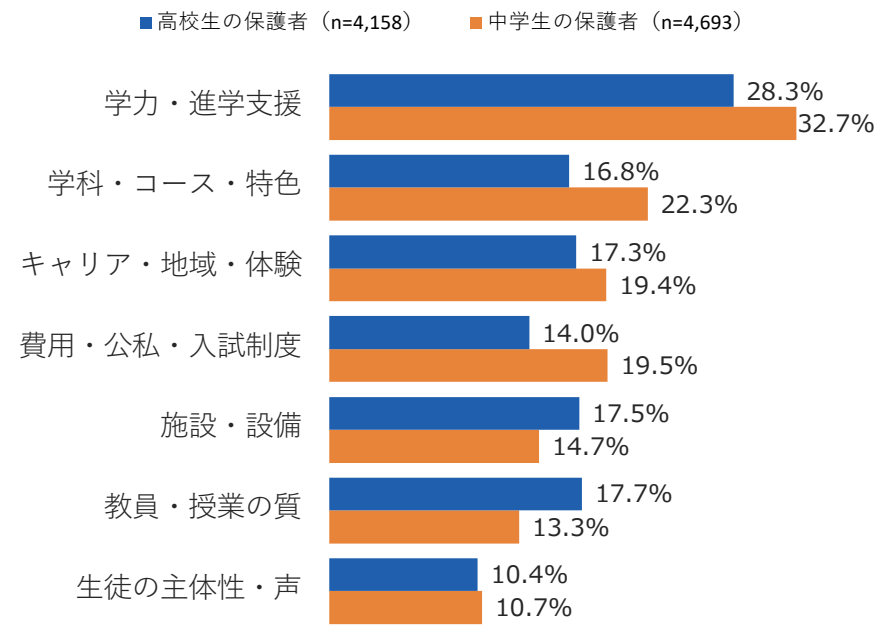
「仲間と共に受験勉強に取り組めることです。」
（高校生）

「友達と話したり、日本語を勉強したりすることが楽しいです。（ひらがなでの回答を漢字に改めた）」
（定時制・高校生）

保護者の声：これからの滋賀の高校に必要なこと

保護者は「進学支援」「特色ある学科」「社会につながる学び」「施設」「教員の質」を求めている

言及の多いカテゴリ（中学生･高校生の保護者）



自由記述をカテゴリ別に分けて集計。

主な意見（原文から抜粋）

「公立高校でも指定校推薦枠を増やすや校内塾、進路指導が私立高と同じレベルでできるとより良い」
（高校生の保護者）

「各校の特色を打ち出していくこと(例えば、偏差値低くても勉強の面倒見が良い、クラブ活動が活発、資格の勉強が出来るなど)だと思います」
（中学生の保護者）

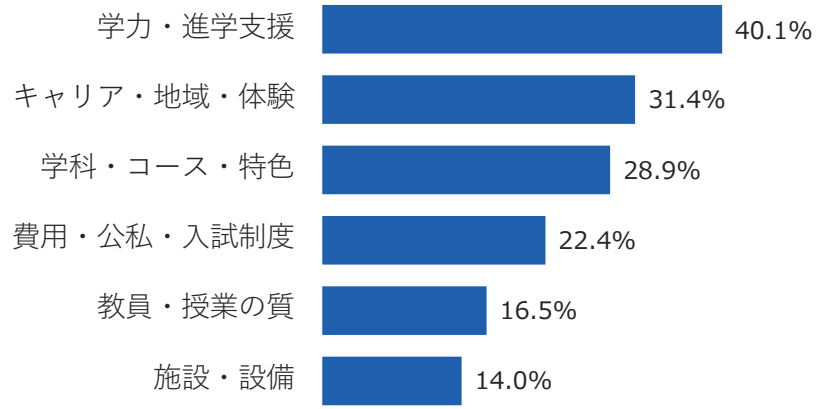
「地域や企業、大学との連携による実践的な学びを充実させ、生徒の意見を学校運営に反映することで、将来を見据えて主体的に学べる、活力ある学校づくりを進めてほしいです」
（高校生の保護者）

「高校卒業後の進路を見据えた教育体制が整うこと。大学進学は勿論のこと、それ以外の選択肢も視野に入れて考えられるような進路指導や、専門性や就職に強い学校をつくる。」
（中学生の保護者）

県民の声：あなたの考え

県民は進学支援に加え「社会につながる学び」「特色ある学科」「学校の配置」を言及している

言及の多いカテゴリ（n=401）



学校の統合・再編・集約への言及：29件
集約化を進めるべきという意見と、地域・通学への配慮を求める意見の両方がある

主な意見（原文から抜粋）

「滋賀県は高校が選べるのが魅力でした。工業、商業、農業、普通科も学力に合わせて選べました。」
（県民）

「実業系の高校の価値を高めて欲しい。」
（県民）

「すでに多くの学校で定員割れを起こしている（少子化・私学志向）ので、大胆に学校再編や廃止も考えなければならない。」
（県民）

「湖北＆湖西地区の統廃合は避けて頂きたい!!公共交通機関も大変不便です」
（県民）

※割合は「特になし」等を除く記述に占める割合。意見は趣旨を変えない範囲で一部省略。

テーマ①　学習環境：暑さ対策と施設

どの立場からも、体育館の空調など「暑さ対策」への言及が多い

1,201件
エアコン・空調・暑さへの言及
（うち高校生 735件）

961件
校舎・老朽化・建て替えへの言及

1,251件
学食・売店・給食など
食環境への言及

378件
トイレへの言及

主な意見（原文から抜粋）

「…夏場は熱中症が心配なので、体育館のエアコン設置や、グランドで活動する生徒のクーリングスポットなどが命を守るためにも必要だと思う。」
（高校生の保護者）

「トイレにも時計と空調があるといいなと思いました。」
（高校生）

「私立校の支援よりも、先ずは公立高校の設備・施設等をしっかりやるべきだと思います。」
（高校生の保護者）

「高校も給食にした方がよいと思います。子供の栄養面、衛生面、共働きの親の負担軽減のため」
（中学生の保護者）

自由記述をカテゴリ別に分けて集計。

テーマ②　公立高校の魅力：進学支援と特色

授業料の負担軽減を背景に、進学支援や特色づくりで公立の魅力を高めてほしい という声

30.6%
保護者（中学生・高校生）のうち
「学力・進学支援」に言及

724件
保護者・県民の
「私立」への言及

210件
保護者・県民の
「塾」への言及

19.7%
保護者（中学生・高校生）のうち
「学科・コース・特色」に言及

主な意見（原文から抜粋）

「公立も塾に行く必要がないくらい、手厚く受験勉強のフォローをしてもらいたい」
（中学生の保護者）

「私立高校を無償化にすると、差別化が難しい公立校は学生の確保に苦慮していくのではないかと思います。公立校の独自性を出していくこともさることながら、制度の見直しも検討されてはどうかと思います。」
（高校生の保護者）

「…普通科の先生に比べて、工業高校・農業高校の先生たちの熱意の凄さに圧倒されました。高校の魅力を存分にアピールしてらっしゃいました。」
（中学生の保護者）

「私立の授業料無償化により、公立高校の受験者が減少すると思う。公立高校に行くメリットは何なのかを今後の受験生に伝えていかないといけないと思う。」
（高校生の保護者）

自由記述をカテゴリ別に分けて集計。

テーマ③　多様な学び方：登校・不登校・日本語

件数は少ないが、登校の柔軟化・不登校・日本語支援 に関する声がある

134件
「通信制」に関する言及

113件
「不登校」に関する言及

51件
外国ルーツ・日本語に関する言及

15件
定時制（馬場分校）の生徒による紙での回答（Web入力分を除く）

主な意見（原文から抜粋）

「…朝の開始時刻を10時開始、週2回昼から登校など、朝が起きれない子でも、定時制、通信ではなく、県立高校を卒業させてあげてほしいと思います。」
（高校生の保護者）

「不登校で面倒くさがりな生徒でも通いたいと思えるような高校を作って欲しい」
（高校生）

「にほんごをもっとれんしゅうできるきかいがたくさんあるがっこうがいいとおもいます。がいこくのせいともあんしんしてべんきょうできるように…」
（定時制・高校生）

「…providing more support for international students and improving Japanese language learning would make high school in Shiga more attractive…（外国人生徒への支援と日本語学習の充実で、滋賀の高校はもっと魅力的になる）」
（定時制・高校生／英語での回答）

自由記述をカテゴリ別に分けて集計。

まとめ：アンケートから見えたこと

自由記述で多く語られたテーマは、大きく4つに整理できる

テーマ	主な結果
① 学習環境と施設	高校生の16.9%が施設・設備に言及。 エアコン・空調・暑さ1,201件、食環境1,251件、校舎・老朽化961件、トイレ378件の言及
② 進学支援と公立高校の魅力	保護者（中学生・高校生）の30.6%・県民の40.1%が学力・進学支援に言及。 保護者・県民の「私立」への言及724件、「塾」への言及210件
③ 社会・地域とつながる学び	保護者（中学生・高校生）の18.4%・県民の31.4%がキャリア・地域・体験に言及。 学科・コース・特色にも保護者の19.7%・県民の28.9%が言及
④ 生徒の声と多様な学び方	高校生の18.4%が校則・自由に言及。 「通信制」134件、「不登校」113件、外国ルーツ・日本語51件の言及

（参考）自由記述の分類方法

分類の手順

1. 各グループの回答を読み、21のカテゴリを設定
2. カテゴリごとのキーワード辞書で全件に自動付与（1件に複数可）
3. 「特になし」「わからない」等は集計の分母から除外
4. 無作為に抽出した120件を目視確認し、付与したカテゴリの約9割が妥当であることを確認
5. どのカテゴリにも該当しない記述（各グループ8～16%）は「その他」とした

カテゴリ	主なキーワード（例）
施設・設備	校舎、きれい、トイレ、エアコン、体育館、老朽
食・購買	学食、食堂、売店、購買、コンビニ、給食
通学・立地	通学、駅、バス、近い、立地
校則・自由	校則、自由、頭髪、メイク、スマホ、バイト
制服・服装	制服、私服、体操服、夏服
人間関係・安心	いじめ、仲が良い、治安、安心、優しい
教員・授業の質	先生、教師、わかりやすい授業、指導
学力・進学支援	進学、大学、受験、補習、塾、勉強、少人数
学科・コース・特色	学科、コース、専門、特色、選択肢
キャリア・地域・体験	将来、キャリア、就職、地域、企業、体験
国際・交流	留学、海外、英語、交流、他校
部活動	部活、スポーツ、各競技名
学校行事	行事、文化祭、体育祭、修学旅行
楽しさ・雰囲気	楽しい、明るい、活気、雰囲気
生徒の主体性・声	主体、自主、意見、挑戦、個性、得意
多様な学び方・支援	通信制、定時制、オンライン、不登校、日本語
費用・公私・入試制度	学費、無償、私立、公立、統合、倍率
情報発信・保護者	発信、オープンスクール、説明会、保護者
時間・休み・ゆとり	休み、登校時間、短縮
現状満足	今のまま、満足

みんなで未来の高校のアイデアを考えよう！

しがの高校をリ・デザインする県民ワークショップ

第1～3回　地域特性の整理

3会場で出た意見の共通点・相違点

1. **第1回　大津・南部（滋賀県庁）**
   9月23日（水・祝）・26名
2. **第2回　湖西（今津東コミュニティセンター）**
   10月4日（日）・31名
3. **第3回　湖北（長浜市民交流センター）**
   10月11日（日）・35名



2026年10月14日(木)10:00-11:00県教委打合せ資料

3回のワークショップの概要

第1回　大津（県庁）

9/23（水･祝）　26名
@滋賀県庁

第1ラウンドの問い
高校で「もっとこうしたかった」ことは？

大人中心
（企業･NPO 7名、教育関係者 8名）

第2回　高島

10/4（日）　31名
@今津東コミュニティセンター

第1ラウンドの問い
もし来年、高校生になるなら？ 困りごとを出そう

高校生･保護者･教育関係者･行政がほぼ同じくらい

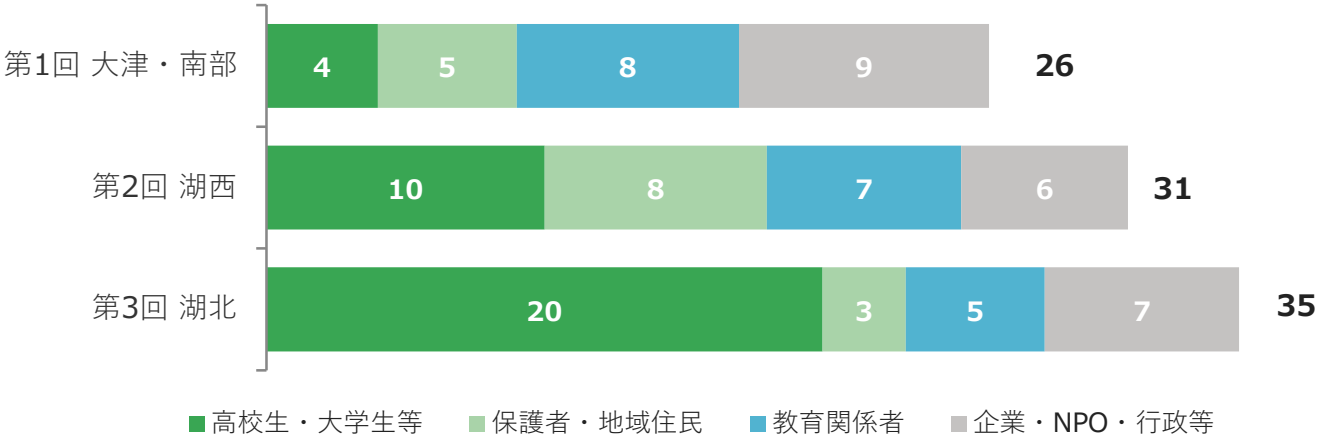
第3回　長浜

10/11（日）　35名
@長浜市民交流センター

第1ラウンドの問い
高校の いいところ / 困りごと を出そう

高校生12名･大学生等8名で若い世代が過半数

参加者の構成（人）



若い世代の割合

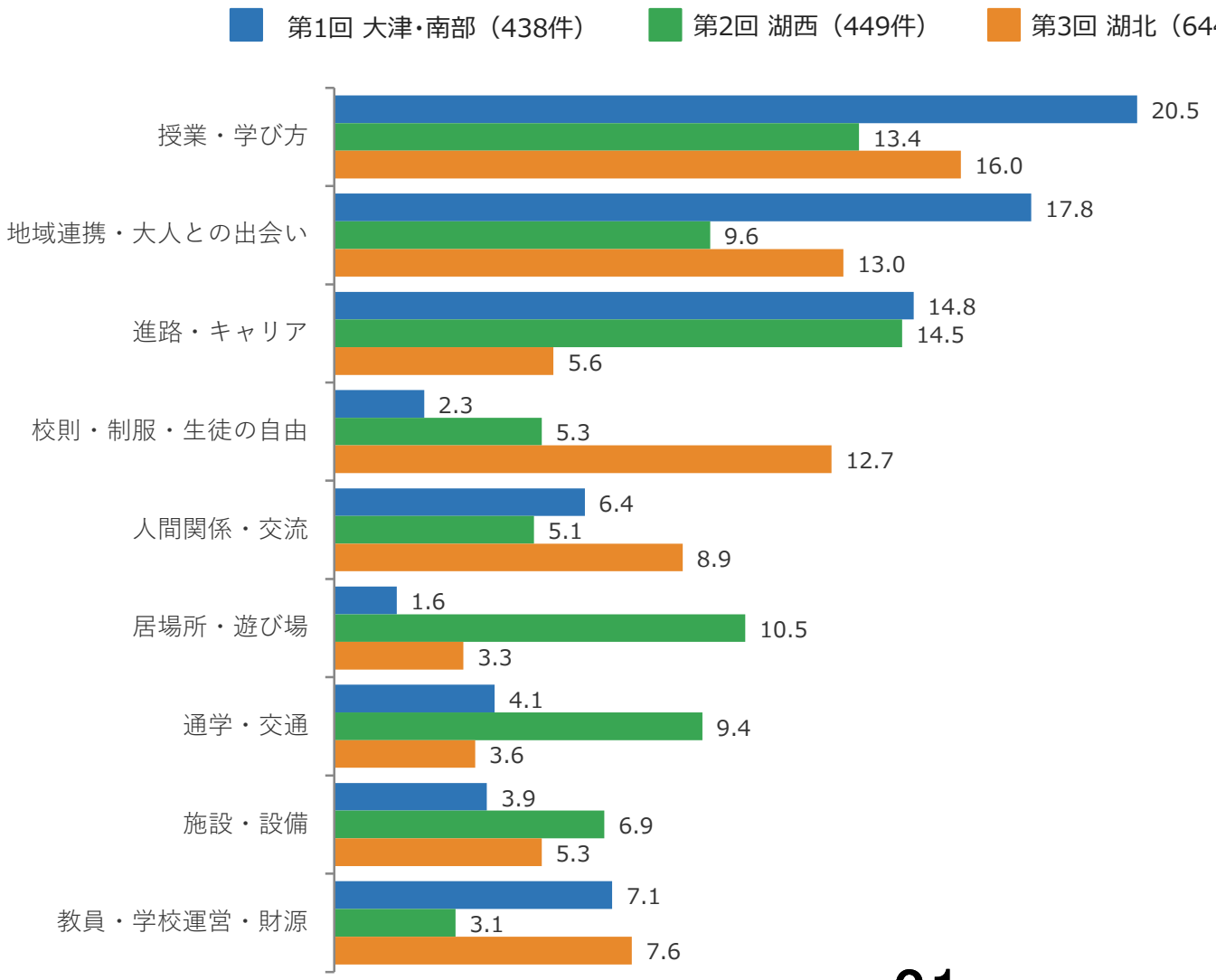
15% → 32% → 57%

回によって語り手が大きく違うため、テーマの差には「地域の違い」と「参加者の違い」が混ざっている。

※テーブルホスト･運営協力者を除く一般参加者数。

テーマ別にみた意見の割合

各回の付箋・提案アイデアの合計に占める割合（%）　どの回でも学び方・地域連携が中心



第1回 大津

地域連携 17.8%

教員・運営も7.1%と高め。
「支える仕組み」への関心

第2回 高島

通学 9.4%・居場所 10.5%

いずれも3回中で最高。
暮らしの基盤への不満

第3回 長浜

校則・生徒の自由 12.7%

他の回の2～5倍。
人間関係・行事も最高

共通点：3地域ともに出た声

目指す高校の姿は、会場が変わってもほぼ同じ方向を向いている

1 学校の枠を越えて選べる学び

他校の授業を受けられる、大学のように科目を選ぶ、オンライン併用、単位制。「授業・学び方」は3回とも上位

2 地域の大人との出会い・地域まるごとキャンパス

「滋賀まるごと高校」（大津）、「地域まるごとキャンパス化計画」（高島）、「湖北全体キャンパス」（長浜）

3 学校を地域に開く

校内カフェ、空き教室の開放、出入り自由な学校。「みんなのカフェ」「全ドアオープン」「複合型施設の高校」

4 学校の雰囲気への息苦しさ

同調圧力、失敗が許されない空気、生徒に裁量がない。生徒が主体となる学校への期待

5 進路を早く決めすぎること

文理選択が早い、中学卒業時の選択が重い、途中で進路を変えられない

6 通学の不便

本数が少ない、駅から遠い。ただし深刻さには地域差が大きい（次ページ）

7 少人数学級を求める声 高島・長浜のアンケートで「生徒が減るなら学校数ではなく1クラスの人数を減らすべき」という意見

相違点①：困りごとと、アイデアの方向

「何に困っているか」の違い

	第1回 大津（県域）	第2回 湖西	第3回 長浜・湖北
困りごとの中心	教員の多忙 地域とつなぐ人がいない 情報が学校ごとに閉じている	湖西線の運休・本数 通える高校が少ない 通信制が遠い 放課後に行く場所がない	厳しい・理不尽な校則 雪の日の通学 バイトや免許が認められない 別室登校が出席にならない
アイデアの方向	支える仕組み：コーディネーター配置、事務サポート職員、教員のサバティカル、情報を地域全体で共有	暮らしの基盤：寮、通学費無料、2拠点通学、学食・子ども食堂、空き教室を居場所に、朽木の林業高校	生徒が決める学校：校則は生徒がつくる、生徒が教員を採用 学校のかたち：「滋賀の高校1校」で各校をキャンパスに、ワンストップ校
代表的な提案	県立地域起業高校 地域連携課を高校に 滋賀まるごと高校	あなたは1人じゃない 空き教室で何でも叶う高校 時間や場所が選べる学校	生徒が主役 湖北全体キャンパス 全県一区やめて滋賀の高校：1校

ひとことで：第1回「支える仕組み」 ／ 第2回「通えること、届けられること」 ／ 第3回「生徒が決めること・学校のかたち」

相違点②：地域の文脈と、再編の受け止め方

人口減少と地域連携の具合によって、再編や包摂性への意見が変わる

	第1回 大津（県域）	第2回 湖西	第3回 長浜・湖北
地域への見方	県域の一般論として語られた。アンケートに「次はその地域での話を」という声	中学卒業者の4割以上が市外へ進学し、2040年に生徒数は57.3%へ。「選択肢が少ない」という危機感	森の探究科や祭りへの出店など、地域連携の実績を誇る声。自然・史跡も「いいところ」に
再編の受け止め方	ほぼ話題にならなかった	「再編はやむをえないが地域バランスを」「統合の判断基準を明確に」	「結局統廃合がオチでは困る」「北部に高校を残すには」。統合前提のアイデアも生徒から出た
取り残さない視点	「誰もが学びやすい高校（不登校対応含む）」が一部で出た程度	「あなたは1人じゃない」が発表テーマに。通信制・不登校・困窮世帯への支援	別室登校、ヤングケアラー、発達支援など、より具体的な困りごととして出た

第1回 → 第3回にかけて、再編の当事者意識と「取り残さない」への具体性が強まっている

みんなで未来の高校のアイデアを考えよう！

しがの高校をリ・デザインする
県民ワークショップ



第３回　開催報告

10月11日（日）
13:30～16:00

しがの高校をリ・デザインする県民ワークショップ

第３回 開催概要

日　時：2026年10月11日(日) 13:30～16:00
会　場：長浜市民交流センター
参加者：35名
主　催：滋賀県教育委員会

当日のスケジュール

13:30	開会・教育委員会からの説明　/ ワークショップの説明
14:00	第１ラウンド　高校で「もっとこうしたかった」ことは？
14:30	第２ラウンド　アイデアをたくさん出そう
15:05	第３ラウンド　アイデアをもっと深めよう
15:35	発表・共有
15:55	まとめ



このワークショップについて

滋賀県では、2040年を見据えた高校教育の将来ビジョンの策定を進めています。本ワークショップは、その検討に県民の声を反映させるため、中高生・大学生から保護者、教職員、地域・企業の方まで、さまざまな立場の人が集まり、これからの高校の在り方を対話で考える場として県内6か所で開催します。

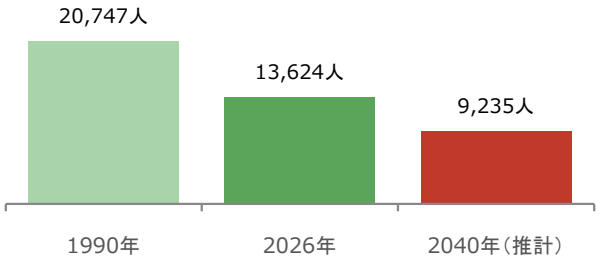
参加者

高校生12名、大学生等8名、保護者1名、教育関係者5名
企業・教育事業・NPOなど5名、地域住民・自治会2名、行政・議会2名

2040年を見据えた高等学校教育の在り方について

滋賀県教育委員会から、滋賀県の高校教育を取り巻く課題について説明がありました

1 生徒数の減少



滋賀県の15歳人口（中学校卒業予定者数）は、2026年から2040年までに**約4,389人減（約110クラス分に相当）**の見込み。

- ✓ **生徒数の減少に合わせた学校規模の検討**
- ✓ **地域の実情に応じた配置・役割**
- ✓ **多様な学びの場の確保**

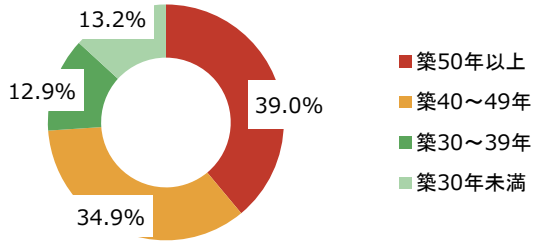
2 学びの多様化と授業料無償化

学習ニーズの多様化
- 生徒の興味・関心や進路希望等に応じた学びの多様化への対応
- 不登校生徒の増加に伴う対応や、外国人生徒等の多様な学びへの対応

地域とのつながりによる学びの展開
- 地域や企業との交流、地域人材の活用等による高校教育の魅力化
- 地域課題の解決に主体的にかかわる、地域の将来を支える人材の育成
- 地域の小中高の学校段階間の円滑な接続

国による高校授業料無償化の拡大（令和8年度～）
- 公立・私立を問わず経済的負担が軽減
- 県立全日制高校の平均志望倍率が1倍を切る
- 県内私立全日制高校への志望割合が15.9%で過去最高

3 校舎等の老朽化



- 将来的に多くの学校で改築や大規模改修が必要となり、その経費負担が大きな課題に。
- 魅力化の観点から、施設・設備の充実（専門的な学びに対応した設備機器、体育館空調など）も必要。

4 課題のまとめ

多様な生徒一人ひとりが「滋賀」という地域から学び、社会の一員としての自立を目指す学校づくりを進めるとともに、時代に合わせた新たな学び、県立高等学校の配置の在り方等を検討し、**生徒、保護者から進学先として選択される、魅力ある高校づくり**を進めていく必要がある。

第１ラウンド：高校の いいところ / 困りごと を出そう

高校生活を振り返り、「いいところ」と「困りごと」を出し合いました

いいところ

友だち・人間関係	・友だちがたくさんできる、みんな仲良し ・いろんな地域から集まるので友だち関係が楽しい ・大学と比べ、クラスがあるから友だちができやすい ・部活の先輩が一緒に帰り、宿題もみてくれた ・少人数のクラス・授業、生徒がよくあいさつする
部活・行事	・部活動が楽しい、部活が青春すぎる ・文化祭・体育祭が盛り上がる、有志発表やバンド ・生徒会で学校生活に関われる ・お昼のお弁当を開ける時のワクワク ・帰りの買い食い、自転車通学で道やお店を発見
学び・先生	・自分の興味のあることが学べる、系列が多い ・探究の授業、大学の先生や職業人の話を聞ける ・先生が親身、生徒と先生の距離が近い ・自由度が高い、やる気があればなんでもできる ・学び直しの授業で、元不登校の子が力をつける
地域・自然	・地域としっかりつながっている、祭りに出店 ・森の探究科など、地域に根ざした学び ・小学校・子ども園との交流、ボランティア ・自然が豊か、すぐ横が森、動物もいっぱい ・歴史の史跡が近く、学校にも長い伝統がある

困りごと

通学・交通	・電車の本数が少ない、駅から遠い ・雪や雨の日の通学、冬の自転車通学がキツい ・バイクや車の免許がとれず、通いにくい ・遊びに行く場所が遠い、まわりにお店がない
校則・雰囲気	・校則が厳しい、変な校則（髪型・制服・ピアス） ・先生の頭がかたい、校長の話が長い ・出席日数のしばり（別室登校が認められない） ・発達の支援やヤングケアラーへの支援が足りない ・勉強はするからバイトさせて
施設・環境	・校舎が古い、トイレをきれいに ・教室が暑い・寒い、学食がない、購買がせまい ・教室以外の休憩スペース・サードプレイスがほしい ・タブレットのスペックが低い、ネット環境が悪い
学び・進路	・授業が一方通行、話せる英語やお金の勉強を ・文理選択が早い、受験の先をあまり教えない ・他校や地域の人、大人との交流が少ない ・部活の数が少ない、人数が減って定員割れ ・やりたいことを新たに見つけても行動しにくい

第２ラウンド：アイデアを広げよう

第１ラウンドの声をヒントに、「こんな高校だったら？」とアイデアを出し合いました

もっと選べる	・大学のように授業を選ぶ、時間割を自分で決める ・どこの高校の授業でも受けられる、学校間留学 ・進路に合わせた授業、専門学校の高校ver. ・学年のしばりをなくす、休学制度、高校を4年に ・対面と映像・リモートのハイブリッド、フレックス制
地域が学校に	・街を学校にする、空き家や古民家を教室に ・地域の人が先生、地域の職人が技術を教える ・地域での活動に単位を出す ・高齢者施設と一体化、家庭科は地域のお母さんから ・高校生が町内会やまちづくりに関わる
社会・大人と出会う	・経営者や社会人、大学生から授業を受ける ・「成功者」でない大人との交流、ロールモデル図鑑 ・賃金がもらえる職業体験、インターン ・納税・保険・金融を実際に体験して学ぶ ・長浜の企業と共同で学び、就職にもつなげる
生徒がつくる	・校則は生徒がつくる、いったん全部見直す ・制服・私服の選択制、頭髪や服装を自由に ・学園祭を本当の生徒主体に、予算も生徒が管理 ・生徒が授業をする、グループごとに先生役 ・ヤバイ校則グランプリで全国投票

バイト・資格	・条件付きでいいからバイトを認めて ・バイトやインターンを単位にする ・学校で運転免許がとれる、校内カフェでバイト
先生・体制	・教員以外が管理職、民間人も教員免許OKに ・社会人経験のある先生、専門性の高い先生を ・先生が生徒を信じる、相談しやすい関係 ・カウンセラーを増やす、AIでできることはAIに
学校同士をつなぐ	・長浜5校生徒ミーティング、生徒会同士のつながり ・近隣校のネットワーク、社会人と合同の部活 ・他校の人も入れる文化祭、地域間交流のしくみ
居場所・施設	・校内にコンビニ・カフェ、駅の近くに高校 ・休憩するためだけの部屋、トイレ・食堂・シャワー ・別室登校を出席に、不登校の人のクラスを ・地域の人がつくるおひるごはん、おかんの給食
遊び心	・屋上で昼食OK、どこでもドアをつくる ・巨大な予算がある文化祭 ・椅子がリクライニング、黒板が一瞬で消える

第３ラウンド：2040年の湖北に、理想の高校を作るなら？

一人ひとりが「アイデア提案シート」に理想の高校を描きました（全45件より抜粋）

新しい学校のかたち

滋賀の高校：1校（キャンパス分け!!）
全県一区をやめ、45校を1つの「滋賀の高校」に。各校がキャンパスになる

ワンストップ校
1つの大きな学校と、各地域の分校。心のケアや専門、自然とのふれあいも

小中高の区分をなくす学校
学校を一本化して多世代が交流。建物や人のコストも減らせる

中高一貫校
課題の近い中学と高校で、生徒を長い目で支援。部活動も連携

ボーダーレス・スクール
全日制・週○日制・通信制などを選べ、学校を選びなおす自由も

親子で通える高校
大人の学び直しも。親子で移住でき、農業・福祉・林業などの就職先も

複合型施設の高校
長浜の企業が併設し、カフェスペースなどで職業体験。地元の就職率UPへ

「自分で生活」ができる学校
コンビニやスーパー、病院がそろう。通いでも寮での一人暮らしでもOK

まち・地域が学校に

湖北全体がキャンパス
1年次は伊香の森、2年次は農高の実習…と選べる。空き家や図書館も教室に

地域の人全員が教員な学校
古民家で授業、病院で保健、パン屋で調理実習。教員の移動はLUUPで

古民家でのおかん給食高校
高齢者も一緒に食べて過ごし、勉強以外の地域のことも学べる

すごいスタジアム
街を学校に。色んなスポーツのスタジアムに子どもプロのチームも集まる

地元企業と一緒にする授業
生徒のアイデアを、地元企業がそれぞれの得意分野で協力して実現する

誰でも学べる学校
地域の人も出入り自由で、授業や行事にも参加できる（防犯は大切に）

楽しく集う学校
社会人、大学生、乳幼児から地域住民まで。学べる人から学び、生徒も教える

地域との交流ある学校
山・森の自然を学び、残していく学部。地域の行事にも参加する

学びを自由に選ぶ

まるで大学みたい!! KOHOKU H.S.
500人の大講義室、サークルいっぱい。授業も服装も自由に選べる

高校と大学の良いとこ取り
授業は自由に選びつつ、少人数クラスと担任で何でも相談できる

リバティースクール
対面とオンラインのフレックス授業。探究発表や論文で卒業、飛び級も

学校間留学×AI 学びの自由
AIで完結する授業と人が必要な授業を分け、他校の授業も受けられる

好きを極める高校
自分で科目を選び、他校の授業も受講できる。県内がキャンパス

専門高校作り（実力主義）
将来やりたい分野を専門的に学ぶ。活躍度に応じて奨学金も出す

限りなく技術が発展した高校
AI中心の学び。校舎には相談室など「対面だからこそ」の場を残す

自分を見つけられる高校
部活だけでなくバイトやインターンも選べ、やりたい事を見つける時間を

生徒が主役の学校

生徒が主役
生徒が教師を採用し、月1回は生徒が授業をする。AIが校長、フレックス制

みんなが納得できる高校！
校則をいったんなくし、先生と生徒で作り直す。条件付きでバイトOK

なんでもありな生徒主の高校
校則は生徒と決める。制服は型や色を選べ、SNSも授業や部活で活用

自由な校則へ
制服か私服を選べ、ピアスや髪染めもOK。生徒が話し合って校則を変えられる

社会密接型課外活動やっていくぞ!!高校
お金の授業や地域の社長との関わり。年1回の成果発表（プレゼン）

学力以外の面も評価してもらえる高校！
人と話す力、創造力、協調性、行動力など、あらゆる力に視野を広げる

自分の子どもを行かせたい学校
「どんな経験ができ、どんな力がつくか」を各校が明言。進学実績＋α

みんなでよりよい形を追究し続ける学校
生徒・教員・保護者・地域で話し合いを重ね、地域の歴史も大切にする

参加された方の声（アンケートより、一部抜粋）

Q1　今日の話し合いで、いちばん印象に残ったのはどんな話でしたか

・高校生から、校則の厳しさや理不尽さ、生徒の主体的な意思決定の不足への息苦しさがこんなに出るものかと思いました。前向きでクリエイティブなアイデアはどれも素晴らしいです。
・社会人との関わりによって、未来のことがとても考えやすくなると思いました。未来への不安が大きい中で、少しでも大人になるのが楽しみになるといいと思います。
・探究学習はどの学校でも進んでいることは分かったが、当事者である生徒は興味のないことをやらされている、ということが新しい発見だった。
・学校に協力してくださる企業さんが少ないからこそ、街全体を学校にしたら、協力ではなく働いている人も一緒になって学べると考えた。
・学校の形を考えていく中で、一つの学校と多数のキャンパスという形はとても面白いと思った。
・長浜地域は地域連携の経験・実績に自負を持っているという実感があった。そのことを高校生・卒業生が誇らしげに話していることがとても印象的でした。
・高校生のリアルな声として、特色化・実践的な学びを、というものが多く意外でした。一方で、志向性が定まっていない生徒に必要な考えも出ており、この両面をつなぐのが高校教育（とくに普通科）の役割だと考えが深まりました。
・今の教員は一旦全員いらないと高校生から求められたこと。寂しいが、これが新しいスタート。高校生に期待！
・高校生の方々が、自分の言葉で意見をしっかり話せるところに感心しました。

Q2　今日、伝えきれなかったことはありますか

・「生徒数の減少に合わせた学校規模の検討」ばかり言われますが、なぜ学級規模は省みないのでしょうか。40人定員を20人にすれば、その場の子たちのやりたいこと、困っていることに合わせて、もっと丁寧に教育ができます。
・通うことが普通ではなかったけれど、学校が楽しい場所であれば通うことができたかもしれない。より多くの人が楽しく通える学校であればいいなと思いました。
・人口が減りつつある町の中で、高齢者も若者も、小さな子どもまで1つになれる、そんな高校が出来ればいいですね。
・「とがっていく」「いろんな経験ができる」は各校で取り組んでいることだが、横のつながりが弱いことが本質的な課題では？
・学校教育の方針に、生徒もいっしょに参加できるようにしたい。
・校則の話で、もっと自分がこうしたい（髪を染めたいなど）を言えなかった。
・今日の意見を実現するために、おもしろい校長が必要です。

Q3　今後、こんなことを話し合ってほしいというテーマはありますか

・市民から出たアイデアは聞くだけでなく、ちゃんと生かしてほしい。結局単なる統廃合がオチでは「市民の声はなんだったの？」ということになります。
・今日のワークショップの内容が、もっと広く地域や高校生に共有されることを願います。
・北部に高校を存続させるためにできること。何が必要か、どこと協力し、誰と連携するのか。
・学校を地域の核とするためにはどうしたらいいか。
・家庭環境で学校へ通えない子に、少しでも学びの場を多くつくるにはどうすればよいか。
・未来（2040年）はどんな時代かを、ブレストしてみたい。
・高校生は自分の住むまちのことをどれだけ知っていて、どんなところに愛着をもっているか聞いてみたい。



















会場の様子